

## 神奈川県立保土ヶ谷高等学校 平成 26 年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

| 学校目標                                  | 取組の内容   |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価<br>(3月6日実施)   | 学校評価<br>(3月20日実施)  |
|---------------------------------------|---|--|--|--|---|--|
|                                       | 具体的な手立て   | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   |   |  |
| 1 国際理解教育の推進及び確かな学力を定着させるための教育課程の改善・充実 | 1 国際理解教育推進のために講演会等を実施し、国際理解教育への関心を高める。<br>2 1学年の「総合的な学習の時間」での交流会やローテーション授業の中で生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばし、生きる力を育成する。<br>3 1、2、3年次に基礎力診断テストを実施し、保護者面談や学級懇談会等で活用する。 | 1 講演会等の実施で生徒の関心を高められたか。<br>2 適切な課題を設定し生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばせたか。<br>3 基礎力診断テストの結果を有効活用し、生徒・保護者に還元したか。 | 1 「海外からの留学生との交流会」(6月)、「国際理解講演会」(10月)、「国際理解交流会」(1月)を実施した。「国際理解講演会」では「かたちの大切なものー 難民としての私の経験をもとに」という演題を設定し、国際理解への関心を高めることができた。<br>2 1学年の「総合的な学習の時間」において「100人村」「課題発表会」「ローテーション授業」等を実施し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成した。<br>3 4月にすべての学年で基礎力診断テスト(英・国・数)を実施し、三者面談前には教員対象として報告会を行った。三者面談時には、生徒・保護者に結果を提示し、日ごろの学習活動や進路活動に役立てた。 | 1 国際理解教育を2学年・3学年につなぐ行事等を検討した。<br>2 授業内容の見直しを行い、さらに生徒の思考力・プレゼンテーション能力を伸ばす指導計画を作成する。<br>3 事前学習教材を在学学生には学年末・学年始休業中の課題としているが、新入生に対しても効果的な配布方法を検討する必要がある。<br>基礎力診断テストの結果を教科で閲覧し、授業等や定期テストに活かす必要がある。 | (学校評議員)<br>○交流会をはじめ、国際理解教育は生徒に定着し、実績をあげている。<br>○外国について学ぶだけでなく、平和、人権、日本の文化について学ぶことも大切である。<br>○基礎力診断テストの結果を分析し、授業改善に活かすとよい。<br><br>(保護者)<br>○国際理解教育を進めることにより、自己の世界が広がるのはすばらしい。また、自国の文化を見つめなおすよい機会になると思う。<br>○基礎力診断テストを行い、面談にて結果報告をいただけるのは、家庭学習の計画をたてる参考になり、よいと思う。 | (学校評価)<br>○交流会や講演会について事前・事後の指導を充実させており、生徒の国際理解を深めている。<br>○基礎力診断テストの結果について教員対象の報告会を実施し、生徒・保護者へ還元している。<br><br>(改善方策等)<br>○国際理解教育については、全学年、全教科の教育活動の中に位置づける取組を進める。<br>○基礎力診断テスト等により生徒の現状を把握し、指導計画や授業改善に活かす具体的な取組が求められる。 |
| 2 指導方針に基づく、きめ細かで粘り強い生活指導・生徒支援の実践      | 1 ルール、マナーの指導を徹底し、規範意識や自己肯定感を育成する。<br>2 携帯電話やスマートフォン等電子通信機器によるいじめ等を含む様々な問題行動の予防  | 1 生徒の規範意識等が向上したか。<br>2 問題行動の予防ができたか。<br>3 職員の共通理解による指導をとおし生                                      | 1 一貫した指導体制を実現するために新・転任者を対象とした研修会を実施し、意識統一に努めた。<br>2 問題行動の未然防止のための啓発活動として新入学年を対象に6月に携帯電話教室を実施した。「いじめ防止基本方針」   | 1 学校生活内での様々な場面で、生徒への働きかけを積極的に行っていくことが必要である。また、保護者を対象とした講演会等の開催を通じて家庭との協力体制の構築が求め   | (学校評議員)<br>○基礎的で日常的な生活指導が定着し、そのことを生徒も理解している。これは教員の地道な努力によるものと高く評価できる。<br>○自己肯定感や規範意識を高めるために、ルール、マナーの指導とカウンセリング  | (学校評価)<br>○日常的な一貫した指導が定着し、落ち着いて学習できる環境が整ってきている。<br>○問題行動やいじめの未然防止に前向きに取り組んでいる。<br>○部活動や一水祭をはじめ   |

|  |   |  |  |  |  |
|--|---|--|--|--|--|
| <p>と早期発見に努める。</p> <p>3 「生活指導の手引き」を改訂し、全職員の共通理解によるきめ細かで一貫した生徒指導の実践により問題行動を減らす。</p> <p>4 部活動に係る活動環境を整備し、部活動の加入率を上げるとともに健やかな心身の育成を図る。</p> <p>5 学校行事に積極的に取り組む意欲を引き出し、仲間との交流を通じて豊かな高校生活を体験させる。</p> <p>6 自主的な生徒会活動の活性化と充実を目指し、地域貢献活動等校外活動への積極的参加を促す。</p> <p>7 教育相談コーディネーターを中心に職員相互の連携を図り、教育相談体制を充実させる。</p> | <p>徒の問題行動が減少したか。</p> <p>4 部活動加入率が増加したか。また、環境整備により充実した活動が行われたか。</p> <p>5 生徒が学校行事に積極的に取り組み豊かな高校生活を送れたか。</p> <p>6 生徒会、各種委員会活動全般が活性化し、活動の場を広げることができたか。</p> <p>7 生徒・保護者が利用しやすい教育相談体制が整えられたか。</p> | <p>等を定め、今年度より施行している。</p> <p>三者面談の機会を捉えて全ての家庭からのいじめ等を含む聞き取り調査を実施した。</p> <p>3 年度始めに全職員を対象にして、過去2年間に実施された「生活指導の手引き」の改訂をテーマに生活指導研修会を実施した。</p> <p>4 部活動加入全生徒を対象とした集会を開き、生活全般の中での部活動のありかたを確認した。また、卓球同好会を部に昇格させ、生徒の幅広いニーズに応えた。</p> <p>顧問総会を中心として、部活動の活動場所の見直しを行うなどの環境整備に努めた。</p> <p>5 文化祭の開会式・閉会式を生徒会本部の主導で企画し、各部活動と連携しながら実施したことなどにより、生徒主体の学校行事に変えていくことができた。</p> <p>6 生徒による自主的な交通安全教育活動を通じて、地域や他校との連携を図ることができた。本校生徒による「非行防止教室」を川島小学校で10月と11月に実施した。また、かわしまホームのクリスマス会は生徒の企画した内容で実施することができた。</p> <p>7 組織的な教育相談体制をより一層充実したものとするために、8月に「ケース会議の積極的な活用」をテーマに外部より講師を招き研修会を実施した。</p> | <p>られる。</p> <p>2 より一層生徒への意識付けを促すためにも啓発の方法について再検討が必要である。</p> <p>3 入学して来る生徒の変化に対応するために職員間で認識を共有するための努力を続ける必要がある。</p> <p>4 昨年度と比べて部活動の加入率が微増にとどまっているため、さらなる勧誘活動を実施する。</p> <p>また、来年度始めに体育館下の部室の整備、活動場所の見直しなどの環境整備を行う。</p> <p>5 球技大会についても、より生徒主体の形態に変えていくことで活性化を図る。</p> <p>6 生徒会本部を中心とした活動は活発であるが、各委員会独自の企画力がまだ不足がちな面がある。</p> <p>7 今ある支援を必要とする生徒を把握する組織体制を一步進めるために、常にチームで対応することへの意識付けを積極的に行うことが必要である。</p> | <p>マインドを重視している成果がみられ、評価できる。</p> <p>○生徒・保護者を対象とした啓発活動と職員研修会は重要だと思う。</p> <p>○職員間の情報と目標の共有は非常に大切である。</p> <p>○規範意識を育成するために学校教育の果たす役割は大きく、生活指導はある程度管理的であるほうが効果的である。</p> <p>○「よりよい学校づくりのためのアンケート」結果ではからかいやいじめを認識している生徒が一定数いるので、さらなるきめ細かな対応を期待する。</p> <p>(保護者)</p> <p>○きめ細かな生活指導により、身だしなみをきちんと整えようとしたり、規則を守ろうとする意識が芽生えることはよいと思う。社会に出て行くにあたり、必要な助言が行われていると思う。</p> <p>○多くの生徒が学校行事や部活動に積極的に参加しており、充実した学校生活を送っていると思う。</p> <p>○大きな声で叱ることが必要のない場面では、生徒を大人として扱い、よいところをみつけて丁寧な言葉遣いで指導してほしい。</p> | <p>とした学校行事において生徒の主体性を重視した取組を進めている。</p> <p>○教育相談体制充実のために研修会等を行うなど取組を進めている。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○一貫した指導を継続するために、クラス増や社会環境の変化による学校運営上の様々な問題に対応し、問題行動を減らすために、指導基準を常に見直す姿勢が必要である。</p> <p>○生徒との信頼関係に基づく指導となるよう、指導のありかた全般の見直しを進める必要がある。</p> <p>○SNSに係るトラブルの未然防止について情報共有を進め、未然防止策を充実させる必要がある。</p> <p>○部活動や行事などにおいて、生徒がより主体的に取り組めるような働きかけが大切である。</p> <p>○教育相談体制整備のために、外部との連携を充実させ、支援を求めていくことが必要である。</p> |
|--|---|--|--|--|--|

|  |   |   |  |   |  |  |
|--|---|---|--|---|--|--|
| <p>3 基礎・基本の定着を目指した授業改善</p>                 | <p>1 適切な小テストや課題などを課すことにより基礎・基本の定着を図り、家庭学習の習慣化を図る。<br/>2 教員のICT活用能力を高め、機器を活用したわかりやすい授業を目指す。<br/>3 「言語活動の充実」をテーマに組織的な授業改善を推進する。</p>   | <p>1 基礎・基本や家庭学習の習慣が定着したか。<br/>2 授業に活用できる機器の整備ができたか。ICT活用能力を高めるための職員研修を実施したか。<br/>3 テーマに基づいた研修会等を実施し、授業の改善が進んだか。</p> | <p>1 適宜、小テストや課題が各科目で課されている。学年が進行するにつれ、家庭学習の習慣が身についた者も多い。<br/>2 ICT活用に係る職員研修を12月に実施した。<br/>3 授業研究週間を効果的に実施するとともに、「言語活動の充実」をテーマとして職員研修会を実施するなどテーマに基づいた研修会を実施し、組織的な授業改善を推進した。また、生徒による授業評価」を実施し、各教科からのコメント欄を増やすなどした。</p>                                   | <p>1 家庭学習が追いつかず、直前に小テストの準備をする生徒や課題が提出できない生徒がいるので、家庭との連携を取りつつ習慣化させる必要がある。<br/>2 実際に授業で活用するにはパソコンやプロジェクトなどの準備に手間がかかるため、各教室に配置が必要である。<br/>3 授業改善が職員間でより組織的に行えるよう、研修会のテーマや授業改善の年間計画を工夫する。また、「生徒による授業評価」をより効果的に行い、授業改善に活用する。</p> | <p>(学校評議員)<br/>○家庭学習習慣の定着について、教科ごとに課題の内容や出し方と提出率をアンケートし、効果的なものがあれば、他教科と共有するとよい。<br/>○言語活動の充実という喫緊の課題を校長がまず把握理解し、学校教育のテーマとして実践できたことは評価できる。</p> <p>(保護者)<br/>○小テストや課題を課すことにより、自主的に学習を進めていくことの大切さを知る機会になるので、今後も定期的に小テストを行っていくことが望ましい。</p> | <p>(学校評価)<br/>○家庭学習の習慣化や基礎基本の定着を一定程度達成できた。<br/>○研究授業や「言語活動の充実」をテーマとして研修会を行うことで、新たな「学力」育成に向けた意識付けが進んだ。</p> <p>(改善方策等)<br/>○ICTを活用した授業も行われているが、より多く活用できるよう、取組を進める。<br/>○「言語活動の充実」の取組をさらに推進する。<br/>○授業改善の推進のために近隣の中学校等との連携を進める。</p> |
| <p>4 キャリア教育実践プログラムに基づく望ましい基礎的・汎用的能力の育成</p> | <p>1 キャリア教育実践プログラムに基づく授業・LHR・個人面談等を展開し、基礎学力と規範意識を定着させるとともに、基礎的・汎用的能力を育成する。<br/>2 進路をテーマとした3学年の「総合的な学習の時間」の授業内容の充実を図るとともに、キャリアガイダンスやキャリアカウンセリング等を充実する。<br/>3 進路指導室の機能を充実し、生徒のキャリア・プラ</p> | <p>1 生徒の規範意識や基礎的・汎用的能力を育成できたか。<br/>2 授業内容やキャリアガイダンスなどを生徒の進路選択に活用できたか。<br/>3 生徒のキャリア・プラン作成や進路決定を支援し、生きる力を育成できたか。</p> | <p>1 進路適性検査(1年)、進路バスツアー(2年・6月、1年・11月)を実施した。<br/>インターンシップに4名、「仕事のまなび場」に22名が参加した。<br/>ハローワークとの連携を強め、就職フェアや就職ガイダンスに参加した。<br/>2 外部講師による進学キャリアガイダンス、就職・進学模擬面接、自己PR書・作文の書き方指導を実施した。<br/>個別面談を適宜実施している。<br/>3 パソコンによる求人票検索や、進学資料の活用、履歴書等作成指導、個別相談を実施している。</p> | <p>1 授業中の約束事の徹底と規範意識醸成の継続的指導が必要。<br/>キャリア教育実践プログラムの内容と事前事後指導を充実させる。<br/>インターンシップ等への参加者を増やす。<br/>2 適切なアドバイスと情報提供で卒業後の生活をイメージさせ、自己決定できる環境を整備する。<br/>外部機関との連携を強化し、有効活用を図る。<br/>3 進路指導室へのパソコンの複数配備が</p>                         | <p>(学校評議員)<br/>○高大・高専の連携が地道に対応できていて、キャリア教育の基盤が作られている。</p> <p>(保護者)<br/>○進路適性検査、進路バスツアーなど早い時期での進路指導は自己の将来を見つめるよい機会になると思う。<br/>○ぎりぎりまで進路の決まらない生徒に、前向きに取り組むよう、教員からの声かけをお願いしたい。</p>  | <p>(学校評価)<br/>○キャリア教育実践プログラムに基づき、基礎学力と規範意識を定着させ、望ましい基礎的・汎用的能力を育成した。<br/>○キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングを通して、3年生の進路先決定を支援し、1、2年生の進路学習をサポートしている。</p> <p>(改善方策等)<br/>○進路指導室の設備・機能の充実を図り、支援体制を強化する。</p>                                       |

|                   |   |  |   |   |  |   |
|-------------------|---|--|---|---|--|---|
|                   | ン作成や進路決定を支援し、生きる力を育成する。   |  |   | 望まれる。   |  |   |
| 5 地域連携の推進         | <p>1 近隣の自治会及び隣接する特別養護老人ホーム「かわしまホーム」等の行事により多くの生徒を参加させ地域との連携を充実させる。</p> <p>2 学校説明会・ホームページ等とおして学校行事・生徒活動・部活動を積極的に広報する。</p> | <p>1 地域との連携を充実させ、深めることができたか。</p> <p>2 積極的な広報活動により本校の特色が正確に周知されたか。</p>                                    | <p>1 「お茶とお花の会」で近隣自治会及び「かわしまホーム」の方々をお招きして多くの生徒と交流した。またフェスティバルイン西谷に部活動の生徒がボランティアとして参加した。</p> <p>2 学校説明会は8月、10月、12月の計3回実施し、生徒会生徒による学校紹介を充実させ、部活動実績のリーフレットも資料に加えた。<br/>また、学校へ行こう週間等の広報活動を行い、中学生及びその保護者の参加を促進した。<br/>ホームページについては、更新が遅れるときもあるが、新しいニュースをすみやかに発信するように努めている。</p> | <p>1 今後もさらに活動の場を広げ、より多くの生徒が様々な行事に参加できるよう促す。また、近隣自治体への広報を早めにする。</p> <p>2 学校説明会の広報活動を充実させ、説明会参加者人数をさらに増やしたい。<br/>ホームページの更新を速やかに行うために、更新の手順を検討する必要がある。また、知識のある職員が増えるとうい。</p> | <p>(学校評議員)</p> <p>○地域の諸行事への参加、養護施設との交流など幅広く連携を実施していることは評価できる。今後は中高の交流も進めて欲しい。</p> <p>○ホームページ更新については、研修会等を実施するとよい。</p> <p>(保護者)</p> <p>○「お茶とお花の会」は部活動以外の生徒も参加できるようにすると、近隣の方と生徒がより触れ合えると思う。</p> <p>○地域の方との交流会は、生徒との交流を楽しみに地域の方は参加してくださっているの、引き続き行うことが望まれる。</p> <p>○参加できない生徒にも内容を伝え、全生徒に学校としての活動を知らせることが大切だと思う。</p> | <p>(学校評価)</p> <p>○生徒が地域との交流を深める活動を積極的に行っている。</p> <p>○学校説明会やホームページにおける情報公開など、広報活動を積極的に行っている。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○生徒が地域の中で活動する機会を広げ、より多くの生徒が活動に参加できるようにする。</p> <p>○ホームページの更新をより円滑に行えるよう、手順を整備する。</p> |
| 6 信頼に根ざした学校づくりの推進 | <p>1 事故・不祥事防止を徹底し、信頼される学校運営を行う。</p> <p>2 大規模災害発生時に備え、生徒の防災意識を高め、防災体制と安全対策を一層強化する。</p>                                   | <p>1 研修や職員間の円滑なコミュニケーションなどにより、事故・不祥事を未然に防止できたか。</p> <p>2 生徒の防災意識を高め、防災用品や防災体制を充実させ、安全対策を推進することができたか。</p> | <p>1 全職員により策定した不祥事ゼロプログラムに基づき、研修会や個別面談等を実施している。</p> <p>2 PTAの協力を得てAEDを購入した。<br/>2学期に防災訓練、3学期に防災教室を実施した。</p>   | <p>1 事案発生時の対応、報告、再発防止について徹底を図る。</p> <p>2 PTAとの連携を一層深め、生徒の安全対策を推進する。<br/>防災訓練については、より実際に即した形態での計画を策定し、来年度に実施する。</p>  | <p>(学校評議員)</p> <p>○研修会等を実施しているが、ネットに係る犯罪については、その手口が一層複雑・巧妙化しているの、生徒も職員もそれらに対応する研修を重ねる必要がある。</p> <p>(保護者)</p> <p>○今後想定される災害を考慮し、実際に迅速に行動できるよう、日ごろからの防災教育は大切なことである。定期的に防災訓練を行うことが望まれる。</p>   | <p>(学校評価)</p> <p>○不祥事ゼロプログラムに基づき研修等を実施し、事故・不祥事防止意識を高めることができた。</p> <p>○計画的に防災教育を行い、防災体制の整備を進めている。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○職員間の円滑なコミュニケーションを進め、引き続き事故・不祥事防止に努める。</p> <p>○常に防災体制を見直し、不測の事態に備える。</p>       |